

## ドラッグストアの登録販売者への問い合わせにみる薬局薬剤師の今後の課題

吉田 豊<sup>1)</sup>、長谷川 佳孝<sup>2)</sup>、前田 守<sup>2)</sup>、月岡 良太<sup>2)</sup>、石川 香織<sup>1)</sup>、森澤 あずさ<sup>2)</sup>、大石美也<sup>2)</sup>

- 1) 株式会社アインファーマシーズ
- 2) 株式会社アインホールディングス

**【目的】**今後の保険薬局に求められる「かかりつけ機能」と「健康サポート機能」では、OTC 薬を含めた服薬情報の一元管理、OTC 薬や健康食品を用いたセルフメディケーションの推進などが必要であり、薬局薬剤師は処方薬以外の知識をさらに深める事が必要である。そこで、地域住民と OTC 薬や健康食品での接点が多い登録販売者への問い合わせを調査し、薬局薬剤師が求められる機能を発揮するために必要となる事項について考察した。

**【方法】**当社が全国で運営するドラッグストア 52 店舗で 2017 年 6 月から 2019 年 3 月までに発生した接客イベントを社内イントラネットで聴取し、そこから登録販売者への問い合わせを抽出し、「薬の選定」「症状・対処法」「飲み合わせ」「使用可否」「薬・成分・用語への質問」「効果効能」「使用方法」「副作用」「その他」に分類した。結果は、有意水準 0.05 としたカイニ乗検定にて統計解析した。

**【結果】**聴取できた登録販売者への問い合わせは 292 件であり、「薬の選定(43.3%)」「症状・対処法(17.5%)」「飲み合わせ(14.4%)」の順に多かった。これら 3 分類について、薬剤師のほうが詳細に回答できる問い合わせは 12.7%、13.7%、64.3%であり、「飲み合わせ」は他 2 群よりも有意に多かった。OTC 薬が対象の問い合わせは 93.7%、88.2%、88.1%であった。

**【考察】**本研究の結果から、ドラッグストアにて登録販売者への問い合わせ内容は「OTC 薬の選定」が突出して多かった。現在、薬局薬剤師が OTC 薬の選定する機会は少ないが、「かかりつけ機能」や「健康サポート機能」の発揮が進むにつれて、その機会が増える可能性も考えられた。登録販売者への質問は、分類を問わず OTC 薬を対象としたものが多く、中には薬剤師の方が詳細に回答できるものも見られた。特に「飲み合わせ」ではその傾向が強く、登録販売者と薬剤師の連携の重要性が示唆され、薬局薬剤師が処方薬と OTC 薬の飲み合わせに関する問い合わせ対応する機会が増える可能性も考えられた。

(第 13 回日本薬局学会(2019 年 10 月, 神戸)にて発表)